

いなさの風

No.16

令和6年 10月21日

〒852-8011 TEL095-861-2650

長崎市稲佐町11番1号

長崎市立稲佐小学校長

岡田 政宏



学校教育目標 **たくましく未来を切り拓く子どもの育成**
「**なりたい自分になる**」いなさっ子の**学びの多様化**に応える

子どもに課する学びへの挑戦

「教わる」から「学び」とるへ

9月の附属小視察研修から一か月。まだまだ手探りですが、先生から一方的に教わるだけの授業ではなく、自ら学習に見通しをもち、自分の適性にあった学び方で、粘り強く学びを進める授業の実践が進んでいます。

「今日の私の学習は、キュビナを活用しながら課題のクリアをめざします。」
6年生の教室で、自由進度学習という学習スタイルで算数科の研究授業が行われました。簡単に言うと、課題を共有した後、一人一人がどのように学びを進めていくか計画を立て、自分に合った方法や場所での学習し、最後に出来栄を振り返るといった流れです。これから、中学、高校、そして社会人となっていく子どもたちが生きていく新たな社会。知識は、常に更新され、あらゆる方法で入手が可能となりますが、正誤の判断は、自らの責任で行わないといけません。本校の合い言葉は「なりたい自分になる」です。この

自己実現を図るためには、今やるべきことは何か、どのようなやり方が自分に合っていて効果的か、やってみた結果はよかったのか悪かったのか、悪かったらどんな改善をすればよいのか、等をしっかりと考え、粘り強く学び続けなければなりません。そんな「学びに向かう力」を授業や家庭学習で育もうというのが、本校の目指しているところです。

6年生の授業の様子
は11分ほどの動画でまとめましたので、ぜひご覧ください。そういえば、福山雅治さんの「トモ工学園」をテーマ曲とした「窓際のトットちゃん」で黒柳さん（トットちゃん）が通う汽車の学校も子どもに委ねる学びを推進していますね。

6年生 算数
(自由進度学習)
10/1

※ホームページ等では公開しません。

感動体験 5年生 野外宿泊学習

感謝と感動、そして完全燃焼の宿泊体験学習。子どもたちはこの3日間で大きく成長しました。5年生が掲げるテーマ「CHANGE」を見事に達成。特にすばらしいかったのは「挨拶・返事」「団結力」「感謝の心」。普段の生活から反応が良い5年生ですが、日吉でもその良さが発揮され、所長様を始め多くの職員の皆様に褒めていただき自信が深まりました。チーム力の高まりも見られました。担当任せにせず全員力でレクリエーションを楽しむ姿や、スコアオリエ

ンテリングでけがをした友達や体力に不安があった友達を支えながら全員でやり遂げた姿には頼もしさを感じました。お世話になった方々に自分の言葉で感謝の気持ちを伝えられる児童も多数いました。また、退所式後に支援に入っていた大学生一人一人に伝えた感謝の言葉には感動しました。実り多い充実した学習となりました。(文・教頭)

5年生 野外宿泊学習
テーマ「CHANGE」

注) BGMが流れます

先生

No.15



今回は、6年2組の担任、○○○(○○○○)先生です。左上の授業動画でも登場しますが、明るく、はつらつとされた先生です。そんな○○○さんは、アニメ「あたしんち」を見ながら家事をすることがお気に入り。ダイエット挑戦も10年目に入ったそうで、これからの効果に期待してくださいとのこと。五島列島出身で実家が漁師なため、魚釣りが大好き。ご夫婦で野母崎までよく釣りに行かれるそうですが、最近はず

感謝の心を忘れずに

しし座

○○先生

く釣れないとのこと。五島に帰ったときには、アジを大量に釣って、お母さんにカマボコを作ってもらったそうです。長崎が一望できるすてきな環境の中で、優しい稲佐っ子たちと6年間も過ごせて幸せいっぱい。人事のルールでは6年で転動です。

いよいよオープンしたスタジオアムシティ。開業日に行ってきました。偶然にも運動会で来賓あいさつをいただいた同施設運営会社リージョナルクリエイション長崎の藤澤 翔部長がおられご挨拶しました。お隣に同社長でジャパネットホールディングスの取締役でもある若下英樹さんがおられたのでご挨拶。すると、「ニュースの取材で、福山さんが指をさして稲佐小学校を紹介していましたよ。」と教えてくださいました。なににな！いろいろと調べてみるとありました。なんと全国放送。しかもインタビュアーはあの安住紳一郎アナウンサー。スタジアムシティホテルとおぼしきバルコニーの窓から「あそこの青い屋根の丸いのが、稲佐小学校って、あれ母校ですから。」と画像には↓付きで校舎がアップで映り、「稲佐小学校 母校ですから」とテロップまで入りました。その後「あっちが淵中学校、あれも僕の母校です。」とカメラマン。テレビの影響は大きく、「テレビを見たのだけれど、学校をもっと花と緑いっぱいにしてはどうか。」と一般の方から学校への提案電話も入りました。いすれにしても、ますます注目される稲佐のまちと稲佐小。一緒に盛り上げていきましょう。

ケセラセラ